

か

だ

る

シニアの社会参加情報誌

K A D A R U

2012.6 月
夏号

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

活気あふれる女性たちが復興の原動力！ なでしこ会（陸前高田市）

陸前高田市広田町長洞地区に長洞仮設住宅「長洞元気村」があります。長洞元気村は、長洞地区の被災者のための応急仮設住宅の自治組織です。「震災後も長洞集落の地域コミュニティを守っていききたい」との思いから、震災以前からの地域の絆を維持し、復興に向けた独自の取り組みをしている仮設住宅です。

この元気村でお茶会や朝市などを行い、仮設住宅の生活に潤いを与えているのが「なでしこ会」（戸羽八重子会長、会員11名）です。「孤立しがちな仮設住宅の生活に活気をもたらしたい」と、同住宅の50～70代の女性が集まり、昨年夏、同会を結成しました。結成当初は、会員らが自主的に同住宅の敷地内で支援物資の残余品や海産物、野菜などを販売しました。会場には毎週多くの住民が集まって、商品は瞬く間に完売。現在も日曜日の朝市として継続し、賑やかな会場は住民の憩いの場となっています。また、民間企業の支援で各住民に携帯電話が無料配布されたことをきっかけに、朝市の前日には、村上陽子事務局長が各住民にお知らせメールを配信します。震災以前はメールをしたことがない会員もいたため、ボランティアから操作方法を丁寧に教わりました。今では



陸前高田市広田町長洞仮設住宅「なでしこ会」のみなさん

このメールでのやりとりも楽しみのひとつになっています。

同会は朝市の他、毎週火曜日、同住宅内の集会所を利用してお茶会を行っています。地元NPOの支援による内職（手芸）をしながら、お互いの事や家族の近況を確認し合ったりします。村上とよみ副会長は、「顔を合わせれば自然と会話が弾みます。お互い気心の知れたもの同士だから、気兼ねなく会話ができるんですよ」と話しています。

今年の2月からはブログも立ち上げました。ブログには、今年の4月に東京都東中野を訪れ、復興支援に

対するお礼として海産物を配布して、地元のPRを行った様子や、同住宅に、東京都の支援者により中央アジアの遊牧民が使用する移動式住居「パオ」が建設された様子など、多岐にわたる活動の様子を掲載しています。

村上事務局長は、「今後も住民同士楽しみながら、支え合っていく」と抱負を話しています。

【なでしこ会のブログ】

<http://www.nagahoragenki.jp/blog/nadeshiko/>

【長洞元気村のホームページ】

<http://www.nagahoragenki.jp/>

定年退職後も働くことを希望する高齢者が、長年培った知識・経験・技能を地域のために生かすことで生きがいをもって生活できるよう、シルバー人材センターでは、臨時的・短期的または軽易な就業の機会、社会参加の場を提供しています。60歳以上で働く意欲と能力を持った方であれば誰でも会員登録して働くことができます。

県内には27か所のセンターがあり、平成24年4月1日現在の会員登録数は7,665人、男女比率は概ね7:3と男性の方が多くなっています。平成23年度の県全体の実績としては、就業実人員は6,869人で就業率89.6%、受注件数は34,968件、契約金額は26億2百万円、1件あたりの金額は約7万4千円、1人あたりの配分金は月額3万2千円です。

仕事の内容は、清掃・草刈の作業や施設の管理、福祉・家事サービス、パソコン・大工仕事の技術・技能などの分野ですが、会員の希望とその経験や知識、技能に合わせて仕事を提供されています。また、シルバー人材センターでは、会員の技能を高めるための各種講習・研修を実施するとともに、仕事中の万一の事故に備えてシルバー保険なども備えています。

岩手県シルバー人材センター連合会久慈高司常務理事は、「平成22年度までは県内の会員数、受注件数は伸びてきたが、昨年の震災で沿岸のセンターでは、会

員が亡くなったり、事務所が流されたりしたため、会員数や受注件数が減少した。しかし、今年から団塊の世代が65歳に到達することから会員は増えるのではと期待している。また、就業会員の総医療費額（推計値）は年間35万8千円であるのに対して、一般の高齢者は41万8千円と、6万円の差があるという調査結果もある（全国シルバー人材センター事業協会のデータ）。生きがいのためばかりではなく、健康づくりのためにもシルバー人材センターに加入してほしい」と話しています。

■ 県内のシルバー人材センター

(社) 岩手県シルバー人材センター連合会 TEL 019-621-8671 E-mail: iwate@sjc.ne.jp 岩手県盛岡市中央通二丁目2-5 住友生命盛岡ビル10階	
(社) 盛岡市シルバー人材センター TEL 019-622-3363	(社) 一戸町シルバー人材センター TEL 0195-31-1905
(社) 花巻市シルバー人材センター TEL 0198-24-0556	(社) 紫波町シルバー人材センター TEL 019-672-1274
(社) 宮古市シルバー人材センター TEL 0193-63-7443	(社) 滝沢村シルバー人材センター TEL 019-699-3015
(社) 釜石市シルバー人材センター TEL 0193-22-2182	(社) 八幡平市シルバー人材センター TEL 0195-64-1511
(社) 一関市シルバー人材センター TEL 0191-26-3760	(一社) 大槌町シルバー人材センター TEL 0193-41-1585
(社) 大船渡市シルバー人材センター TEL 0192-26-5124	山田町シルバー人材センター TEL 0193-82-3381
(社) 北上市シルバー人材センター TEL 0197-65-4080	平泉町シルバー人材センター TEL 0191-34-1108
(社) 奥州市シルバー人材センター TEL 0197-25-6117	軽米町シルバー人材センター TEL 0195-46-2881
(社) 久慈市シルバー人材センター TEL 0194-52-1154	田野畑村シルバー人材センター TEL 0194-33-2816
(社) 遠野市シルバー人材センター TEL 0198-62-0577	岩泉町シルバー人材センター TEL 0194-22-5123
(社) 二戸市シルバー人材センター TEL 0195-25-5678	(一社) 金ヶ崎町シルバー人材センター TEL 0197-44-3219
(公社) 陸前高田市シルバー人材センター TEL 0192-54-4888	九戸町シルバー人材センター TEL 0195-41-1200
(社) 矢巾町シルバー人材センター TEL 019-698-1236	(一社) 雫石町シルバー人材センター TEL 019-692-6351
普代村シルバー人材センター TEL 0194-35-2100	

(平成24年5月1日現在)



盛岡城跡公園を清掃する会員のみなさん

書籍紹介

夫婦の手紙

小さな町に託された3035通の手紙から

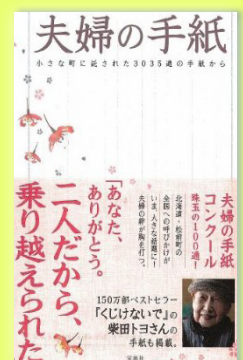
宝島社

北海道松前町に「夫婦桜」として親しまれている桜がある。樹齢80余年の2種の桜の木が1つの根で繋がっていることがその名称の由来である。このことが夫婦仲の象徴とされ、同町は平成20年から「夫婦の手紙コンクール」を開催している。

本書は、全4回の応募作3,035通から優秀作品100作品を採録。作品は、「妻か

ら夫へ」、「夫から妻へ」、「今は亡きあなたへ」に分けられる。いつもそばにいて当たり前夫婦だが、普段口には出さない日常の中に隠れた思いを言葉に表現することで、夫婦とは貴重な存在であることに改めて気づかされる。

『詩集 くじけないで』の柴田トヨさんの手紙も収録。



寺町桜を育てる会（大船渡市）

「住み慣れた地域の活性化を生きがい」に

寺町桜を育てる会（山下哲夫会長、会員 155 名）は、大船渡市日頃市町の住民が集まって平成 23 年 2 月に結成。地域の高齢者の力により、同地区の長安寺付近の盛川の川べりに桜並木を造成することで地域に活性化をもたらすことを目的に活動しています。

この活動を始める以前から、この地域では、「住み慣れた地域を活性化させたい」、「意欲ある高齢者の活躍できる場を設けたい」という住民の強い思いがありました。そのような中、長安寺地域に桜並木を造成する市の計画が以前から中止されていたため、「地域の高齢者の力でこの事業を成し遂げたい」と同会を結成しました。

会を結成し植樹計画を立て、植樹地の整備を開始したのが平成 23 年 3 月初旬。直後に東日本大震災が発生しました。同会は大船渡市の山側にあり、大きな被害は免れたものの、桜植樹活動を中断し、被災者への支援活動に全面的に協力することとしました。しかし、震災から 3 か月が過ぎた頃、「被災された方々に桜を見て心を癒してほしい」という会員たちの思いから、桜植樹活動を再開。山下会長は、「結成当時以上にこの活動を重要に感じている」



桜の植樹整備を行った寺町桜を育てる会のみなさん

と話しています。植える桜の品種に「ベニヒガンザクラ」を選定し、25 本を植樹しました。その後、同会の桜植樹活動を聞いた神奈川県河津町から、復興のために役立ててほしいと、河津桜 15 本が届けられました。山下会長は、「この活動を通じ、60 歳以上の作業参加者は延べ 200 人を超え、家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加も図られた。今後

も続けて地域の活性化につなげたい」と話しています。同会へのお問い合わせ先は、山下会長 0192-27-7678 まで。（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

吉水支え愛クラブ（紫波町）

「社会貢献を通じて元気な高齢者をめざす」

吉水支え愛クラブ（橋本幸一会長、会員 15 名）は、紫波町吉水地区の高齢者が中心となって、平成 23 年 2 月に結成。同地区は高齢化率が 29%と町の平均より 6 ポイント高い一方、元気な高齢者も多く、高齢者同士が支え合う取り組みを模索していました。そのような中、地区内に荒廃地や河川に土砂が推積している箇所が散見されていたことから、環境保全、高齢者世帯の清掃・除雪、講演会などを通じて、高齢者の生きがいづくりを形成することを目的に有志が集まり、団体を結成しました。



草刈り作業を終えた会員のみなさん

本格的に活動を始めたのが、昨年 9 月。地区内の雑種地の草刈りや水路の泥上げ作業のほか、冬に除雪作業等を数回行いました。地区内の関係団体の協力を得ながら、毎回 20 名前後が参加。その他、独居高齢者世帯の敷地内の清掃や健康講座、施術指導の開催、ホテルの里づくりを目的に水辺調査を行いました。

松崎勝見事務局長は、「地域の高齢者同士が一つのものに向かって取り組んでいることで、様々な効果がある。活動を通じて地域住民の絆が深まってきていることや、これまで地域活動に消極的だった高齢者も自主的に参加してくれた」と話しています。さらに、「この活動は高齢者の生きがいづくりのみならず、地域コミュニティづくりにも生かせると感じている。今後も地区内の関係団体や地域の皆さんと協力関係を保ちながら活動を継続していきたい」と話しています。

同クラブへのお問い合わせ先は、松崎事務局長 019-673-8069 まで。

（この事業の一部に、岩手県長寿社会振興財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

糸の会（工藤升子会長、会員 12 名）は、平成 4 年に旧西根町で開催された自分史講座の受講生が集まり、同年 4 月に発足しました。会の名称について、工藤会長（81 歳）は次のように話しています。「自然の染料で糸を染めた場合、一つとして同じものはないと聞きます。一人ひとりの生きざまもこの糸に似ています。それぞれが持っている糸を、極彩色でなくともそれなりに織り上げてみようというのが糸の会のゆえんです」。



糸の会会員のみなさん

毎月 1 回の例会では、会員が、会オリジナルの用箋に書いた原稿を持ち寄って朗読し、互いに感想を述べ合って校正します。その原稿を工藤会長がワープロで活字にし、1 年分を短編集としてまとめ、秋の読書週間中、八幡平市立図書館で展示しています。自分史として発刊する際は、テーマごとに章立てし、巻頭には工藤会長のまえがき、巻末には個人の年表と仲間のお祝いメッセージを添えます。昨年 10 月に開催した 20 回目の作品展には、4 冊の新刊を含めた 11 冊の自分史を展示。書き上げた会員は、『『元気なうちに一冊を』』を目標に書き続けました。試行錯誤を重ね、書き続ける苦しい作業を

終えただけに達成感は大
きく、喜びもひとしおです
と感想を述べています。

また、毎年春と秋には、
社会探訪として花見と紅
葉見物にも出かけ、会員
同士の交流を深めていま
す。さらには、奥州市の
自分史「歩の会」とも 15



糸の会 工藤升子会長

年間にわたり作品交流や感想、情報交換を続けていて、
地域の枠を越えて交流の輪を広げています。

工藤会長は、「自分史は、書いた後の達成感や充実
感を得られるとともに、様々な時代を生きた心のひだを子
や孫や若い世代に伝えていくことにも意義がある」と語っ
ています。そして、多くの方にも「書くことは考えること。
アンチエイジングにもつながるのではないかと」勧めてい
ます。ただし、「人を傷つけたり、自分史が自慢史にな
ることを避けなければ」ということも加えています。

同会へのお問い合わせ先は、工藤会長 0195-76-2538
まで。



八幡平市立図書館に展示された糸の会の自分史

平成 24 年度「ご近所支え合い活動助成金」第二次募集のお知らせ

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、「ご近所支え合い活動助成金」の応募を常時受付けて
おりますが、第二次の締め切りを平成 24 年 6 月 29 日（金）必着としております。

申請についてのお問い合わせは、岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターまでご連絡ください。

※「ご近所支え合い活動助成金」とは、県民が共に支え合う活動を支援し、安心して暮らし続けることがで
きる地域社会を実現するため、県民の地域貢献活動を支援するための助成制度です。概ね市町村単位もしく
は 市町村の一部で行う、「高齢者が主体となって行う活動」または、「高齢者等をサービスの対象とした支え
合 い活動」を対象としています。

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成 24 年 6 月 10 日発行

〒 020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>